

東京プロジェクトスタディ2 第6回記録ノート

1月17日(木)10:00~13:00@上野、水道橋

※フィールドワークのルートと彫刻の位置

<https://drive.google.com/open?id=10U7FMq6YUk8n9xwb65j1Z1-CFfsFV81K&usp=sharing>

【I：フィールドワークの記録】

このフィールドワークでは、「東京藝術大学彫刻科の前進となる東京美術学校が開校した1887年から2027年までの10年ごとに『東京彫刻計画』というプロジェクトが行われている」というフィクションを使って、東京にある彫刻を巡っていきたいと思う。

『東京彫刻計画』を東京の彫刻に重ねてみると、例えば1987年に設置された上野の西郷像は、第2回目の東京彫刻計画に設置されたものとして見る事が出来る。今日のフィールドワークでは、上野周辺の彫刻を見て行きたいと思う。

設置年/作品名/作者

①上野@上野公園、東京藝術大学

1) 1897/西郷隆盛像/高村光雲

- ・佐藤：東京彫刻計画で言うところの第2回目の目玉作品。
- ・稲継：金属回収で溶かされなかったということ？

2) 2005/忘れじの塔/海老名香葉子：建立

・佐藤：関東大震災の慰霊塔だったが、戦没者も同時に慰霊することになった。天災と人災の死者を同時に慰霊することが物議をかもした。

3) 1966/安井誠一郎像/東龍太郎：建立

- ・東：土台がかっこいい。

4) 不明/ダイアナ/アンナ・ハイアット・ハイティント

5) 1917/地獄の門/オーギュスト・ロダン

・佐藤：西洋美術館の設計者によると、本当は室内に入れたいという要望もあり、揉めたい。実際はオリジナルの像から型をとり、1933年に鋳造されているもの。

- ・稲継：免震装置が入っている。
- ・東：我々が彫刻の前に溜まっていたら、人が集まってきた。

6) 1881/エヴァ/オーギュスト・ロダン

7) 1909/弓をひくヘラクレス/エミール=アントワーヌ・ブールデル

8) 1884-1888/カレーの市民/オーギュスト・ロダン

- ・ 東：こんなに上野の彫刻をじっくりみるのは初めて。
- ・ 佐藤：建築学科の設計課題で彫刻を置くギャラリーの課題を出すと、18歳の学生たちはロダンを選ぶ。
- ・ 稲継：私なら避けるかなあ。あえて選んで愉快地置く、とか。
- ・ 佐藤：この広場、15年くらい前に土の盛り上がりができた。それまでは周囲の植物もなく、さりげなく設置してあった。それによって前川建築と分断してしまった感じもある。

9) 1881-82年：原型、1902-03年：拡大、1926年：鑄造/考える人/オー

ギュスト・ロダン

- ・ 佐藤：拡大され、鑄造したもの。ロダンは1917年に死んでいて、鑄造は1926年。死んだ後にお金儲けしたい人が作ったのではないだろうか。
- ・ 稲継：3Dプリンタもないのに、どうやって拡大したのか。筋肉の感じとか。見よう見まね？
- ・ 佐藤：村上隆がアイデアを出して、スタッフがつくり、村上隆がチェックをする、みたいな感じで、大きくするのは弟子がやって本人がチェックしたということはあるかもしれない。鑄造が生前かそうじゃないかによって、価値は変わると思う。
- ・ 稲継：拡大するというコンセプトは面白いが、7年じゃないので東京彫刻計画の出品作に当てはまらない。残念・・・。
- ・ 堀切：たしかに、巨大彫刻につながっていくので話としてはいい。

10) 1951/野口英世博士銅像/吉田三郎

- ・ 佐藤：建立のための募金活動は1947年から行われている。
国立科学博物館の前に置くという意図があると思う。
- ・ 稲継：かわいい藤子不二雄像といわれたら納得する。
- ・ 東：野口英世が我々の頭の中ですでにキャラクター化されている。
- ・ 佐藤：偉人フィギュアとか流行りそう。

- ・ 稲継：銅像自体がどうこうよりも、銅像があれば、街を歩く理由になる。
- ・ 堀切：街歩きのひとにはよい。ポケモンGOっぽい。目的地にもなるし、アートプロジェクトでもある。

11) 1973(初代)、2006(2代目)/ボードワン博士像/不明

- ・ 堀切：おでこが光っていてコンディションがいい。ガンダムっぽい。
- ・ 稲継：上野公園生みの親らしい。上野公園ができる1873年まで日本には公園がなかった。
- ・ 東：寺や庭園が公園のような場所だったのだろう。解説文が手書き文字っぽい。
- ・ 堀切：今は、手書きの文字や絵も、スキャンデータがあればレーザーでなんでも彫れるらしい。

12) 1979/イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレソツネナラムウイノオクヤマケフコエテアサキユメシエヒモセスン/最上壽之

13) 1975/円柱の領域/小田囊

- ・ 佐藤：建物（東京都美術館）ができた年
- ・ 西島：「領域」って空間を作っている感じがする。

14) 1977/P3824 M君までの距離/鈴木久雄

- ・ 佐藤：ミュンスター最初の年。ドナルド・ジャッドが出来た年。
- ・ 堀切：彫刻からキャプションまでの距離が離れている。この位置から見て欲しいのかな？

15) 1985/my sky hole 85-2 光と影/井上武吉

- ・ 西島：下から覗くと空が見える
- ・ 東：東京彫刻計画の出品作に当てはまっていれば・・・！
- ・ 佐藤：ここからタワーマンションと五重塔がみえる風景もよい。
上野の彫刻は美術館とコラボレーションしている感じがある。
- ・ 堀切：ミュンスターと同じ。
- ・ 東：上野動物園の中にも、動物を祈る像、のようなものがいくつもある。

16) 1936/正木直彦像/沼田一雅

- ・佐藤：木で出来ている。この状態で大丈夫なのか？

17) 1967/壁 meccainismo/不破由晴

- ・佐藤：大学院の修了制作。
- ・堀切：修了制作がずっと母校に残ってるなんて。
- ・稲継：涙ですね。

18) 1925/青銅時代/オーギュスト・ロダン

19) 1917/石川光明/朝倉文夫

20) 1935/高村光雲/高村光太郎

21) 1930/竹内久一/沼田一雅

22) 1971: 鋳造/バルザック像/オーギュスト・ロダン

- ・田中：台座がいい。
- ・佐藤：キャプションがない、ほしい。

23) 1931/岡倉天心/平櫛田中

24) 1910/加納夏雄/米原雲海

25) 1936/久米桂一郎/北村西望

- ・東：台座が凝っている。

26) 1913/橋本雅邦/白井雨山

27) 1929/白井雨山/建畠大夢

28) 1928/大村西崖/朝倉文夫

29) 1990/道標・鳩/榊原義達

- ・西島：いっぱいいる。
- ・田中：台座もデザインしているのか。

30) 1970/カルメン/堀口泰造

- ・稲継：上半身は裸だが腰布をまとっている。

31) 不明/母子像/遠藤松吉

- ・東：裸の女性と子供。何の象徴なのか。
- ・稲継：平和の象徴で女を全裸にさせるのは疑問。
- ・佐藤：100年前の平和の象徴。その前の100年もある。
- ・稲継：次にこの台座に載るのは何の象徴なのか。
- ・堀切：女の人で裸婦像をつくる人はいるのか。

【Ⅱ：ミーティング 報告会にむけて】

以下、ミュンスター彫刻プロジェクト＝「ミュンスターSP」、東京彫刻計画＝「東京SP」。

※東京彫刻計画は「フィクション」で、まちなか彫刻をリサーチをするための設定・枠組みであるという前提で、下記の会話は行われている。

1) 「東京彫刻計画」とは何か。どう扱うか。

稲継：2月の報告会は、ミニショー、プレゼン、グランドショーの3部構成のイメージ。エンタメなプレゼンテーションのためにはどうすればよいか。「東京SP」に対して、どんな立場でプレゼンするのか。「東京SP」の売りは何か。ハイアートなのか、市民参加をうたっているのか。

佐藤：「東京SP」の売りは歴史が長いことではないか。ある時は騎馬像、ある時は平和の像、都市開発と絡めたり、時代にあわせて開催方法を変えてきたから。ただ、現状みてきた彫刻だと“7”縛りによってあまりその変化は見えない。美術的な作法だと“7”にこだわるべきだし、演劇的な作法だとそうでもない。どちらでもよい。

稲継：我々が「ミュンスターSP」の2027年を目指しているのに対して、なぜ、「東京SP」があるのか。

佐藤：「ミュンスターSP」を目指すにあたって彫刻に向き合う必要性を感じた。東京の彫刻と向き合うための枠組み。

坂本：リサーチをするための口実。

佐藤：過去のフィクションとしては“7”をみていく。未来に向かっては「東京SP」と「ミュンスターSP」が2027年に同時開催されるので、居間 theaterは両方に参加することを目指す。

稲継：「東京SP」がハイアートなのか、否かをきめないと、「あれは入るの？ 入らないの？」という議論がおこる。「東京SP」の開催者ではなく、研究者として振る舞ったほうがよいかも。

東：研究して、未来を考えるとか。

坂本：残っていないけどパフォーマンス的なものもあったはずで、それをどう捨るか、捨わないのか。

佐藤：東京をリサーチするための「東京SP」が主役になると面白くない。副次的なものにしたい。

稲継：報告会では、要素過多な今現在の状況を、ばかばかしく、全部をみせたい。

坂本：2027年を見据えているのはゆるぎなく、そのために彫刻を捉え直す「東京SP」がある。その段階を経て動いていく途中感をそのまま示すのはもちろんOK。いかにスタディをみせるか。

稲継：報告会のために「東京SP」のストーリーをつくり込み過ぎて、今後の方向性が縛られてしまうのが不安。途中感をいかにわくわくみせるか。

佐藤：「ミュンスターSP」の過去5回を調べた報告もしたほうがよい。「ミュン

スターSP」研究会がいつのまにか「東京SP」研究会に変わっている、とか。

2) プレゼンの見せ方。ショーアップのしかた。

東：いままでに見たことないようなプレゼンテーションをしたい。

稲継：めっちゃ楽しいプレゼンを考えたい。

坂本：スタディ自体も、「めっちゃ楽しい」を辿りながらきたと思う。

稲継：プレゼンの最終的な終わり方は、「東京とミュンスター、どっちも見据える」ことを宣言するとか。

東：2018年までの報告をして、最後にto be continued感を出す。

稲継：「東京SP」をリサーチの口実として持つのはわかる。プロセスとしてそれが出てきたのもわかる。しかし、「ミュンスターSP」と「東京SP」を並べる意味は何か。「東京SP」というフィクションを、どのくらいの強度で扱うのか。

佐藤：「ミュンスターSP」があって、その視点でみる「東京SP」。というのが一番シンプル。

3) 報告会の位置付け。

坂本：報告会のために、無理して何かを作る必要はなくて、どうスタディを伝えるか。

東：報告会の目的はスタディの経過報告をすること。フィクションの「東京SP」は経過報告にどう絡むのか。

稲継：「ミュンスターSP」に対抗して「東京SP」が出てきたわけではない。「ミュンスターSP」を調べた結果、彫刻に興味が出て、小田原さんの話をきっかけに、裸像やまちなか彫刻を集めるようになり、無作為には集めきれないので7"縛りができた。

坂本：東京に関して言えば、「東京SP」とすることで、そこにキュレーションやディレクターの意図がみえないと違和感が出てきてしまう。「東京彫刻大賞」など、10年を示す彫刻を選ぶ、とかならわかる。

東：どんな立場で報告するべきなのだろうか。

稲継：あまり演じすぎると無理がでると思う。また、「ミュンスターSP」を何回か勉強してみたけど、予想が事実として証明されたという感じがある。スタディとしての大事な転換期は、彫刻を全然知らなかったことに気づいて、彫刻に興味が出てきたころ。そこで、「東京SP」と名付けて、現状は調査をしている状況。ばかばかしいけど、スタディの真面目さが現れた部分でもある。そこを真摯に報告したほうがいい。そのおまけとしてパフォーマンスをつける。そのパフォーマンスは新作ではない。途中なので、そこまではいけない。このスタディの経過とその面白さをわかってもらえないで終わるほうが悲しい。

4) 他のスタディの様子。報告会で大事にしたいこと。

坂本：スタディ1は、実践者たちの話を聞いて、ディスカッションし、参加者がエッセイをかいてきた。形になる未満の部分があつまっている。スタディ3は、毎回ゲストを呼んでおり、スタディの最終回ではスタディに入っているライターと清宮陵一さんが鼎談をする予定。報告会の内容は未定。スタディ4は、東京でのチームづくり。何か新たなものを生み出す場とチーム（lab）をつくって、なにかが動き出しそうな状況をつくろうとしている。人に話を聞いて、記録していくことに興味がある人があつまっている。スタディ5は、ワークショップ的に参加者がいくつかの方法で表現をしている。3月に展覧会をする予定で、その経過を発表するんじゃないかと思う。

まだ、まとめる段階にないので、いかに色んなところを行ったり来たりしながら考えているかという状況が成果と言えらると思う。

稲継：この東京で、「東京SP」という名前をつけてリサーチしていることを、聞いている人たちが面白そうじゃん、と思ってくればいいのか？

東：個人的に過去の経験からすると、ラボ型のプロジェクトにおいては、これまでのプロセスと今の状況を誠実に説明して理解してもらうことが何よりも大事だと思うけど、プロセスだけ説明して、よしとされることにも正直疑問を感じることもある。

稲継：このスタディにおいては、プロセスと状況を理解してもらった上で、応援し続けてもらうために、もうひとつショーアップしようと考えているのだと思う。参加者も含めて全員で、チームでプレゼンをするのはどうか。プレゼンの稽古をする。みんなのキャラを

拡張する。チームプレゼンの一部として、パフォーマンスをいれるのはあり。発表者が変わる時のつなぎは鮮やかにしたい。

【Ⅲ：次回】

・1月19日(土)15:00~18:00@ROOM302

〈参考URL〉

1) BANCHAN WORLD 「ディープな上野公園(銅像編) 【東京考察#273】」

<http://f-banchan.net/tokyo273>

2) 旅と写真と旅土産 「国立西洋美術館 庭園の彫刻」

<https://tabi-foto.com/room-0/local/seiyo-bijutsu/index.html>

3) 東京藝術大学学生便覧 「屋外銅像・記念碑等」

https://www.geidai.ac.jp/wpcontent/uploads/2016/02/TUA_Binran2015_TheStatue_Monument.pdf

4) tak*y3*のブログ 「358、東京(23区)の銅像 文京区一3」

<https://blogs.yahoo.co.jp/takay36/35945020.html>

5) 佳景探訪 「本郷給水場公苑」

<http://www.natsuzora.com/dew/tokyo-east/hongokusuijokoen.html>

(文=堀切梨奈子)